HOKKAIDO UNIVERSITY

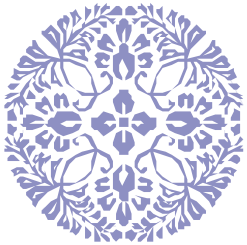
Title	有職文様における意匠生物の特徴（予察報告）：四足動物の忌避と在来種の敬遠
Author(s)	大舘, 大學
Citation	生き物文化誌学会　第11回学術大会, 平成25年7月7日, 東京都
Issue Date	2013-07
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/53591
Type	conference presentation
Note	要旨の出典：『生き物文化誌学会第11回学術大会・東京大会　生き物文化誌学会創立10周年記念　プログラム・要旨集』p.30-31
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	ppt.pdf (スライド)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

五衣唐衣裳

向尾長鳥丸



八藤丸

浮線菊

有職文様における意匠生物の特徴（予察報告）
―四足動物の忌避と在来種の敬遠

大舘大學（北海道大学）

轡唐草

輪無唐草

藻勝見

束帯

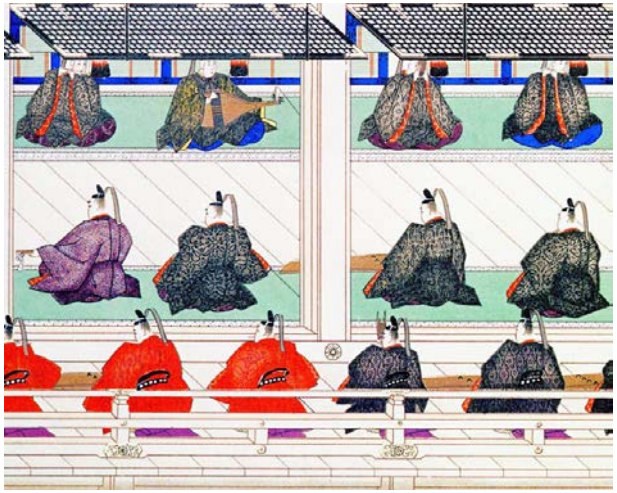
八條2005より引用

有職文様とは？

「ゆうしょく」ないし「ゆうしき」と読み、漢字も「有識」とも書く（こちらのほうを本儀とする）

有職故実：「事に臨んで実際に施行するために、旧儀・先例を参考として、此のような場合は、いかなる装束を、どのように着用して、如何に行うか」を研究するもの（鈴木1995）。本論では特に宮廷や貴族社会の決まり事や先例に限定。

有職文様はその有職故実によって使われる文様を指す。有職文様とは広汎で曖昧な定義しかできないが、端的にいえば公家の装束や女房装束、儀礼や日常での調度品などに用いられる文様。本来は身分制と関係している。

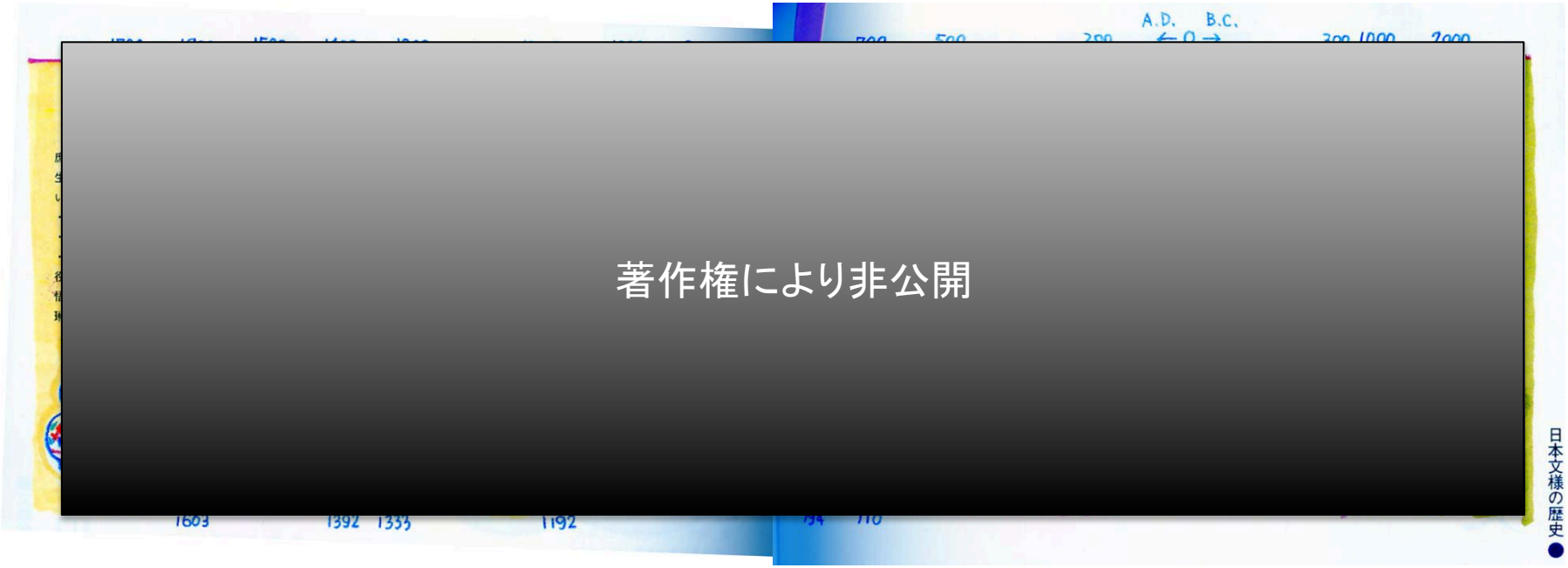


孝明天皇紀附図（宮内庁）

十二単の世界（講談社）より

紫檀地螺鈿平胡籙（MIHO Museum）

日本（本土）における文様の歴史



「日本・中国の文様事典」（視覚デザイン研究所編、発行）より

有職文様の起源は飛鳥時代から平安時代初期に大陸から移入された文様。次第に国風化し、鎌倉時代に有職故実が成立すると有職文様も確立した。その後、和風要素を次々と取り入れた。現在は皇室関連・神社での儀式、伝統的催し物、人形や帯などに用いられる場合がほとんど。

目的

1. 有職文様において利用される生物モチーフの内訳を明かにする
2. モチーフとしての動物と植物で差があるのか？
3. 在来生物と外来生物の利用に差があるか？
4. その理由（将来的）

調査手順

1. 収録元の画像項目を個々のサンプルとする
2. 複合文様についてはそれぞれの属性で等分する

例：松喰鶴丸　＞　½在来鳥+½在来植物

3. 丸や線についてはカウントしない。色違いも考慮しない。

4. 「見立て」については抽象的に留まるものは元の意匠の、見立てた物に具象化したものはその属性で、どちらとも言い難いものもそれぞれで等分する。

例

臥蝶丸１＞　外来植物（唐草or変型パルメット）

臥蝶丸２　＞　1/2在来昆虫+1/2外来植物

蟹牡丹　＞　1/2在来動物+1/2外来植物

（本報ではこの例はない）

ぷりふあ人形工房楽天市場のサイトより引用

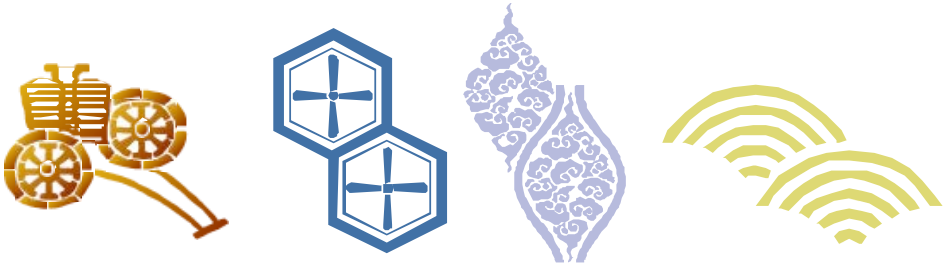
5. 「在来」か「外来」かについては、広域分布種（グループ、例えば鹿、蝶、楓、撫子など）で日本（本土地域）でもごく普通に見られるもの（シカ、オシドリ、ツルなどは外来のモチーフではあるが）は原則「在来」に、非実在的生物（龍、麒麟、鳳凰など）や概念的生物（唐草、唐花、宝相華、パルメットなど）は「外来」に。現実的生物は、現在の移入/在来種の見解をもとに分類した。

在来と外来が混在している場合は等分する。

葵唐草　＞1/2在来植物（葵）+1/2外来植物（唐草）

6. 生物の意匠に生物以外の天文現象（波、雲など）、器物（車、家など）や幾何学紋（亀甲、菱、襷など）の意匠が付随的についている場合は無視する。しかし、これらの非生物のみで用いられている場合は独立してカウントする。

雲鶴　＞　在来鳥。雲は無視。



小車、亀甲、雲立涌、青海波　＞独立カウント

（亀甲、七宝、青海波、立涌などの幾何学的文様のほとんどは西アジア起源）

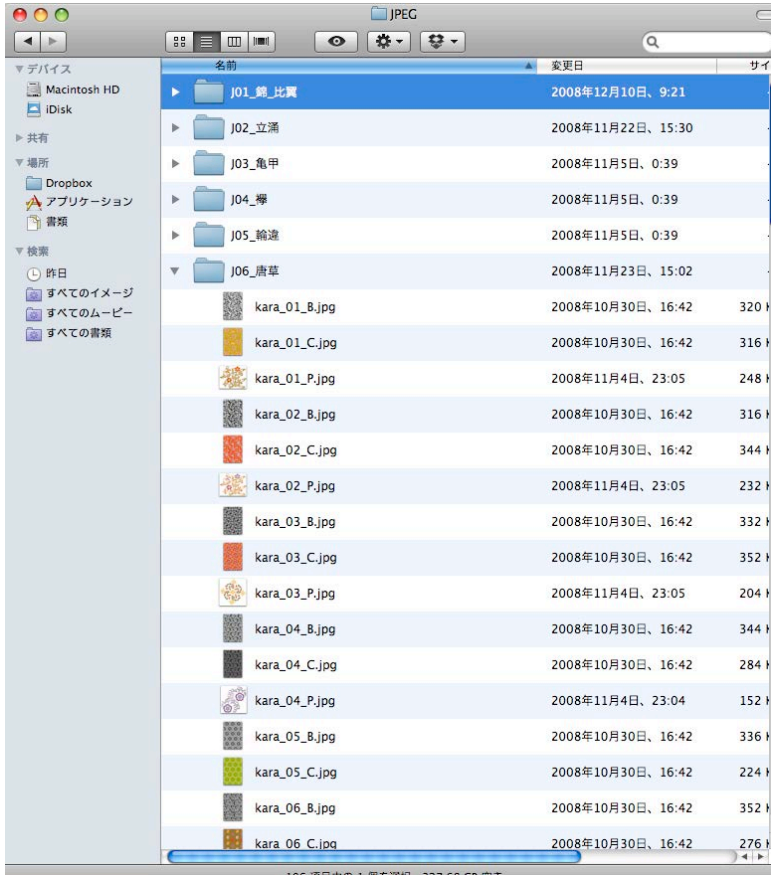
データ元

八條（2009）マール社

理由：有職文様の意匠の全体像を網羅した図案集（織文図会などの古典の図案もカバーしさらに現在利用のものも紹介している）

平安時代～現代の有職文様集

一部、例外的に奈良時代の文様で後世まで用いられた繧繝なども含む



387の図案が収録（一部、割愛）

以下の14のカテゴリーに分割

外来植物

在来植物

その他植物

外来鳥類

在来鳥類

その他鳥類

外来四足動物

在来四足動物

昆虫

魚

気象

器物

幾何学

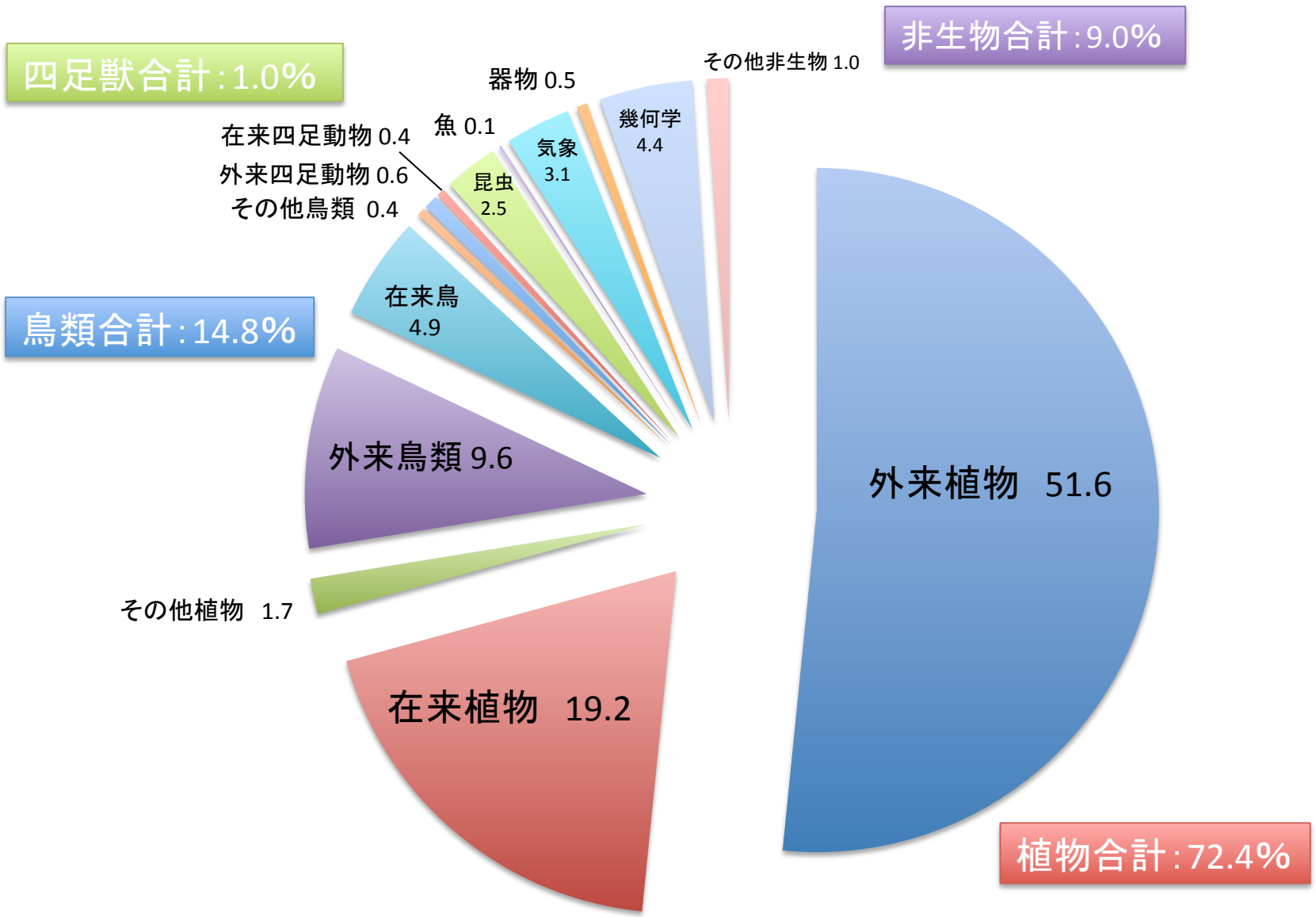
その他非生物

狩衣

八條2005より

結果

有識文様における意匠



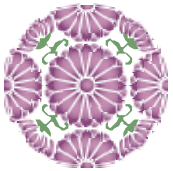
90%の有職文様に生物の意匠が取り入られている

植物が圧倒的に多い（72%）

うち外来種（唐花などの観念上の植物も含む）が在来種の2.5倍以上ある。

外来の例）

菊



浮線菊

仙台

桐

桐唐草立涌

鎌倉

梅

八重梅

札幌

藤菱

藤

小葵四方繋

宝相華

札幌

在来種のうちフジは例外的に普遍的に用いられる。

八重桜

瞿麦丸

三楓

桜、楓、撫子などの在来種を用いるのは近世以降に多い傾向

動物は鳥類、昆虫、四足動物などが用いられているが、そのうち鳥類が圧倒的に多い

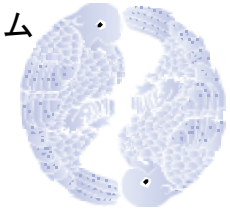
外来鳥（鳳凰などの想像上の鳥も含む）は在来鳥の約2倍。在来鳥でも外来デザイン由来がほとんど

外来鳥の例）

鳳凰

鳳凰丸

オウム



向鸚鵡丸

オナガドリ

尾長鳥丸

クジャク

孔雀丸

在来鳥の例）

ツル

雲鶴丸

オシドリ

鴛鴦丸

鴛鴦唐草文（正倉院裂より復元）平凡社より

ハト

鳩丸

セキレイ

鶺鴒

数少ない純粋な在来鳥モチーフか？

苫小牧

昆虫は意外に多かった（2.5%）が全てが蝶であった

ナミアゲハ (wikipediaより)

向蝶丸

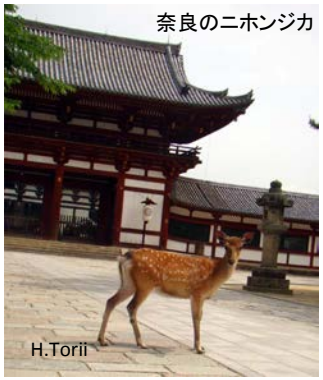
御簾帽額ミスノモコウ

四足動物の利用は少ない

（在来と外来の差はサンプル数が少ないので何とも言えない）

鹿モチーフが僅かに利用される（有識文様としては極めて異例）。

鹿襷



随身（SP）の褐衣の蛮絵のモチーフ

随身装束（褐衣カチエ）

八條2005より

蛮絵獅子

左近衛獅子(上位)

蛮絵熊
右近衛熊

外来動物が優位！
（百獣の王？）

12世紀前半頃までは、近衛府は左右共に獅子、兵衛府は鴛鴦、衛門府は熊だった（中右記）。

天皇の儀式時の黄櫨染御袍（ｺｳﾛｾﾞﾝｺﾞﾎｳ）、青色御袍の文様の桐竹鳳凰麒麟文（室町時代以降に麒麟が加わったとされる）。前者は重儀、後者は軽儀に使用

天皇以外は絶対に利用できない文様と色
(皇太子の窠の中に鴛鴦文の黄丹袍も同じ)

窠の中に鴛鴦

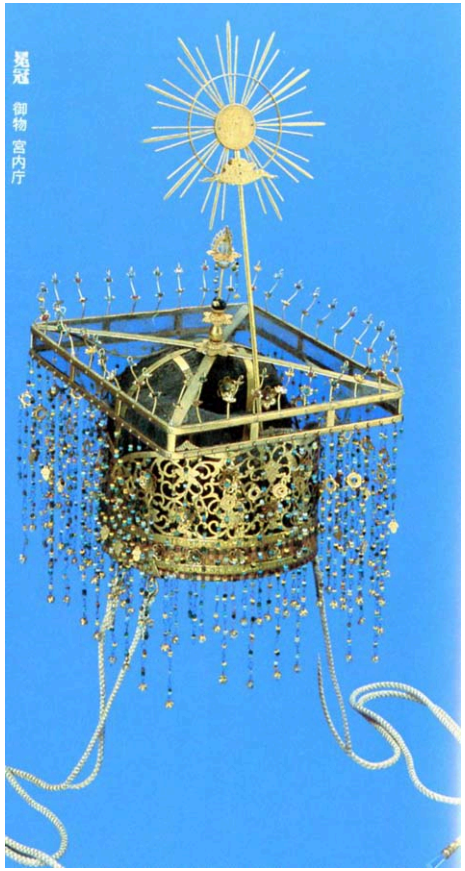
孝明天皇青色御袍（平安神宮）

天皇即位式の衮冕（ｺﾝﾍﾞﾝ）の意匠（純中華式、次で説明）

天皇即位式の純中華式の袞昇ｺﾝﾍﾞﾝ（昇服）

なんと5種の四足獣が、

植物は月の中にある桂のみ



冕冠

宮中・柳営の秘宝（河出書房）より

分析データには含まれず　東山天皇の礼服（ﾗｲﾌｸ）の袞龍十二章　聖武-孝明天皇まで使用

四足動物は飛鳥時代～奈良時代のペルシャや中国由来の文様では多く用いられるが、有職文様が成立した鎌倉時代以降はまれである

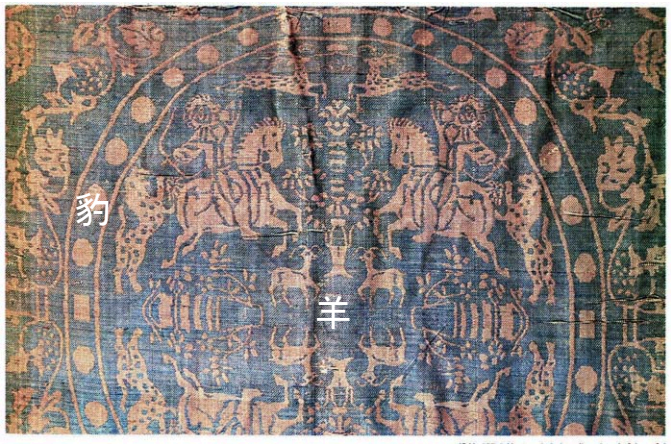
随身という「威嚇」する荒々しい場合や、天皇即位式という最も格式の高い場面において限定利用（<>　武家との違い）

四足動物をあまり利用せず植物を利用するというのは、家紋などの伝統文様でも言える>　日本の伝統文様の大きな特徴

>なんらかの共通した理由があると思われる。

草食系？

四騎獅子狩文錦（法隆寺）



緑地狩猟文錦（法隆寺）

何故、有職文様に四足獣を用いないか？

貴族社会で哺乳類の毛皮などを衣類（黒貂裘など）に利用しなくなるのは鎌倉時代初期と推定されるが（大舘2010)、有職文様の成立と時期をを同じくしている。
四足動物の肉食が公的に希になる時期は平安時代中期以降なので、食生活のほうが少し先行しているが、それとも関係があるかもしれない。
＞ケガレの思想と関係がある可能性の示唆（要検討）

©綾麿

平安時代中期の上級貴族が着用した黒貂裘の推定図

何故、外来生物がモチーフとして好まれるのか？

権門、富貴、知識階級や芸術家の「唐物好み」と関係があるかもしれない。
＞外来のものを珍重する古来から現代に至る日本人の特性
➢人類共通。手に入れられにくい、珍奇なものを珍重する

他文化との比較調査が必要

今後の課題

より体系的・科学的な有職文様のモチーフを分析

時代による変遷

東アジアや東南アジア、中央アジア、西アジア、南アジア、ヨーロッパ東部、ヨーロッパ西部、イスラム圏との比較（日本だけが外来種にこだわる傾向があるのかなどの比較検証）

理由の解析（因子分析？）

どなたか興味ある方おりますか？

世界で見かけた有職意匠の姉妹群

仏領レユニオン島のクレオール建築の軒

ミャンマー中部の町の入り口のアーチ

フィンランド・ヘルシンキの政府系建物の柱の頭

ユビキタスなロゼット

神出鬼没な七宝文

グラン・コモロ島（コモロ共和国）の民家の戸

ベトナム・ホーチミン郊外の廟の柱の元

ブリヤート共和国・ウランウデのチベット仏教寺院

インターナショナルな唐草

最後に一言

有職文様の姉妹群は世界中で見られる

日本の有職文様は世界中で受け入れられる素地がある

有職文様をもっと活用しましょう！

小直衣

藻勝見

ご静聴有り難うございました。

謝辞：画像データの利用許可および各種の助言していただいた、有職装束研究所の八條忠基先生。

本報告中のデジタル画像データのほとんど全ては八條著、平安文様素材CD-ROM（マール社）から。

有識装束の入門書として最適な
八條先生のご著作

誠文堂新光社（2005，絶版）